

2016年7月25日

四国アイランドリーグplus

事務局長 坂口裕昭

四国アイランドリーグplus 北米遠征報告会 及び 2016シーズン後期開幕記者会見のご報告

四国アイランドリーグplusは、本日、7月25日に、徳島県徳島市内において、四国アイランドリーグplus2016北米遠征報告会及び後期開幕記者会見を行いました。

会見は二部構成で行われ、第一部では、北米遠征の報告がなされました。

第二部では、後期シーズン開幕を間近に控え、四国アイランドリーグplus運営会社である株式会社IBLJ代表取締役社長・森本美行より、後期シーズンからの新たな取り組みとなるスポーツマンシップ宣言について説明を行うとともに、各球団のキャプテンより、後期シーズンに向けた意気込み、抱負などが発表されました。

北米遠征2016の報告、各球団の監督及びキャプテンのコメントにつきましては別紙のとおりです。

なお、スポーツマンシップ宣言の内容につきましては、別途、リリースをさせていただきます。

四国アイランドリーグplus運営事務局 株式会社IBLJ

<http://www.iblj.co.jp>

〒761-8013 香川県高松市香西東町267-1

TEL 087-802-1580 FAX 087-802-1581 担当:加藤

一部/北米遠征報告

<株式会社IBLJ代表取締役社長・森本美行のコメント>

グラウンド上だけではなく、ホームステイや、大使公邸での交流などを行いました。情報発信の評価としては、ツイッターの拡散効果もあり、多くの方に大変興味を持って頂けました。

現地に行きつづけたのは、サヨナラ負けが続いて悔しい思いをしていたにも関わらず、試合終了後、応援に来て頂いたお客様に対し、笑顔でコミュニケーションをとってお見送りをされる様子。悔しい思いをしても、そういう経験をしたことが、今後の彼らの力となって、グラウンドのパフォーマンスにつながると信じています。

【四国アイランドリーグplus選抜チーム「SHIKOKU ISLAND LEAGUE plus ALL STARS」監督】

<徳島インディゴソックス 中島輝士 監督のコメント>

2回目の北米遠征ですが、昨年よりもスムーズに消化できました。チームの方は8勝12敗で、目標の勝率5割は達成できなかったものの、全試合が僅差で、1試合も気を抜かず、選手は頑張ったと思います。2度目という事もあり、キャプテンの宗雪、野手では四ツ谷、投手では正田、松本らがチームをまとめてくれ、初戦からALL STARSというチームになって戦えたと思います。

昨年、ボールダーズに歯もたたないような戦いぶりでしたが、1つ勝ち越したという事で、僕自身の満足感はものすごくあります。サヨナラゲームが4試合あり、アウエーの洗礼を受けた事もありましたが、選手は嫌な顔をせず、全力を尽くしてくれたと思います。

昨年はアメリカチームの方が高いレベルだと思いましたが、今年に限ってはカナダチームがかなり打力的に力がありました。トロワリヴィエールのチームが、ものすごく破壊力がありまして、7-2とリードして、逆転されて負けたという印象もあります。一番のベストゲームと思っているのは最終戦のオタワチャンピオンズに粘って粘ってみんなの力で最後の最後に逆転した試合が印象に残っています。

最後に親善試合でキューバ代表とやらせていただいたんですけど、この試合で中盤まで点が取れなかったのですが、最後に3点を取り、日本の最後まで諦めないという姿勢が、アメリカのファンの方にも少しは伝わったのではないかと思います。

この1か月間の遠征で、選手たちは、いろんな経験をさせて頂きましたし、これからまた、来年再来年、1年でも長く続けられるように社長にお願いしたいと思います。皆様のご支援が、こういう大きな経験と財産になると思います。四国アイランドリーグplusの財産にもなると思いますので、少しでも長く続けられることを願っています。

【四国アイランドリーグplus選抜チーム「SHIKOKU ISLAND LEAGUE plus ALL STARS」代表選手】

<高知ファイティングドッグス 平良成 選手のコメント>

今回の北米遠征では、クローザーというポジションで起用していただきました。その中で、アメリカ、カナダではマウンドやボール、審判の判定など、いろいろ日本とのギャップもたくさんありました。そんな中、勝つか負けるか、引き分けのない試合で、中継ぎ、クローザーとして調整法を考えてマウンドに立ち、絶対に抑えるのだという強い気持ちを持って戦う。そういった部分を、学べたと思います。

また、僕が一番自信になった点は、今回は緊迫した試合が非常に多かったのですが、約2000人のお客様がおり、ブーイングなども受けながら、その中でもしっかりと投げ切れたという部分もあります。

日本でも経験できないことがたくさん得られたので、そういった部分を後期に活かして、しっかりと僕の野球人生、そして今後のキャリアにも活かせたらいいと思います。

<愛媛マンダリンパイレーツ 四ツ谷良輔 選手のコメント>

今回で2回目の北米遠征となりましたが、改めて外国人投手の球の速さと重さをすごく感じ、打者では、身体能力の高さというものを、改めて感じました。僕自身、現時点ではどこがどう成長したのかは分かりませんが、必ず成長はできたと思います。この成長した部分というのが、後期の試合のプレーの中で必ず出てくると思うので、北米遠征の経験を活かして、後期のアイランドリーグをもっと盛り上げていける様に頑張ります。

<香川オリーブガイナース 原田宥希 選手のコメント>

僕は、北米遠征で先発投手をさせて頂きました。4戦投げて2勝する事ができました。向こうではマウンドとかボールとかが日本とは全然違うので、その中で2勝できたことが、その中で、一番大きい自信となりました。前期は全然勝てなかったの、北米遠征の状態を維持して、勝てる投手になれるように頑張っていきたいと思います。

<徳島インディゴソックス 平間隼人 選手のコメント>

今回、自分は初めてアメリカとカナダで試合をして、日本と違った球場の雰囲気や、野球でコミュニケーションが取れるということを実感して、楽しく充実した経験をする事ができました。日本でも打てよと言われぬように、アメリカだけだと言われぬように頑張ります。

・二部/後期シーズン開幕に向けて

<愛媛マンダリンパイレーツ 鶴田都貴 選手のコメント>

前期は優勝しましたが、後期も優勝できるように頑張ります。守りだけでなく、チャンスで点が取れるよう、打撃の方でも勝てるチームになっていければと思います。8月20日にサブロク双亮投手が投げますが、その試合も落とさないようにやっています。

<徳島インディゴソックス 小林義弘 選手のコメント>

前期は0.5ゲーム差というところで愛媛に競り負け、優勝を逃しました。その中で、雰囲気を良くしてくれた外国人選手、ジェフン選手、ガルシア選手がNPBに行ってしまいました。

後期がまた新しく始まるんですが、彼らの穴を埋めて、後期は優勝できるように、全員でやっていきたいと思います。

<香川オリーブガイナース 宗雪将司 選手のコメント>

後期では、北米に行ったメンバーも、日本に残ったメンバーもそれぞれ前期3位の悔しい思いを胸に、一致団結して取り組んでいきます。香川オリーブガイナースは全員野球をして、後期優勝できるように頑張りたいと思います。

そして、森本社長が言ったように、地域貢献、地域活動ができるように、ガイナースとしてはさまざまなイベントをしていきます。その中でガイナースはダイヤのエースとコラボをさせて頂きます。そういったところでダイヤのエースに興味のある子どもたちが、自分たちの姿を見て、野球っていいな、独立リーグっていいなと思って頂けたらと思います。

<高知ファイティングドッグス 河田直人 選手のコメント>

前期シーズンは、自分が足を引っ張ってしまって、最下位となってしまいましたので、宗雪キャプテン、小林キャプテン、鶴田キャプテンに負けぬように全力を尽くし、チームを優勝に導きたいと思います。

<株式会社IBLJ 森本美行 代表取締役 のコメント>

もうすぐ後期シーズンが開幕します。遠征前の記者会見において、選手一人ひとりに心意気などを話してもらったのですが、改めて今日話を聞くと、一人ひとりが自分の言葉で話せるようになっていきます。本当に短い期間でしたが、これも北米遠征の成果だと思います。北米遠征で経験を積んで、様々な苦勞、様々な良い事、仲間意識、いろんなことを経験した選手が、それぞれのチームに戻って戦いを始めます。そこで得たことを、各チームのリーダーとなり、切磋琢磨して戦う事によって、その先に彼らの本当の夢であるNPBであったり、さらにその先であったり、そこに必ず続くものであると思っています。アイランドリーグが無くてはならない存在となるために、ここでプレーする、選手一人ひとりの真摯な気持ち、スポーツマンとしての行動、絶対上に上がるんだという強い覚悟、そういったものをしっかりと持って戦う事を彼らは理解していると思います。後期の四国アイランドリーグplusを楽しみにしていただければと思います。